

平成 19 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 角谷 常子

最終学歴	1990年3月京都大学大学院文学研究科東洋史学専攻博士課程単位取得満期退学
取得学位	博士（文学）
所属学会	東洋史研究会、東方学会、日本秦漢史学会、木簡学会、史学研究会
現在の専門分野	中国古代史
研究課題	中国古代における意思表示手段とその社会的背景

【研究上の特記事項】

2007年度奈良大学研究助成「中国古代石刻流行の社会的意義に関する基礎的研究」研究代表者・京都大学人文科学研究所における「漢簡語彙の研究」班及び大阪産業大学における『九章算術』研究会の班員及び研究会員。

【社会的活動】

日本秦漢史学会理事（2005年度～）、木簡学会役員（2005年度～）、歴史講座（日本セカンドライフ協会）講演3回（大阪市）『古代文化』編集委員（2007年度～）

【学内活動】（学内職歴を含む）

教務委員・国際交流委員・セクシャルハラスメント委員

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（学会発表） 「中国出土簡牘の現状と東アジアにおける意義」	単	2008年3月2日	新潟大学超域研究機構 公開シンポジウム「簡牘の世界」	中国の簡牘の出土状況を踏まえ、日本・中国・韓国の、簡牘という共通項をもつ世界における中国簡牘の意義と、三国共通の簡牘研究を推進するための展望を述べた
（その他） 研究助成概要報告「中国古代出土文字資料の基礎的研究」 （書評）「秦末の息づかいが蘇る『復活的歴史』」	単 単	2008年3月 2008年2月	『総合研究所所報』第16号 『東方』324号	中国における実地調査の結果を踏まえ、画像石も含めた石刻研究の現状と課題を述べ、また簡牘研究の課題についても触れた 李開元氏の表題著書を紹介・評した。